



2024年3月期決算および2025年3月期経営計画説明資料

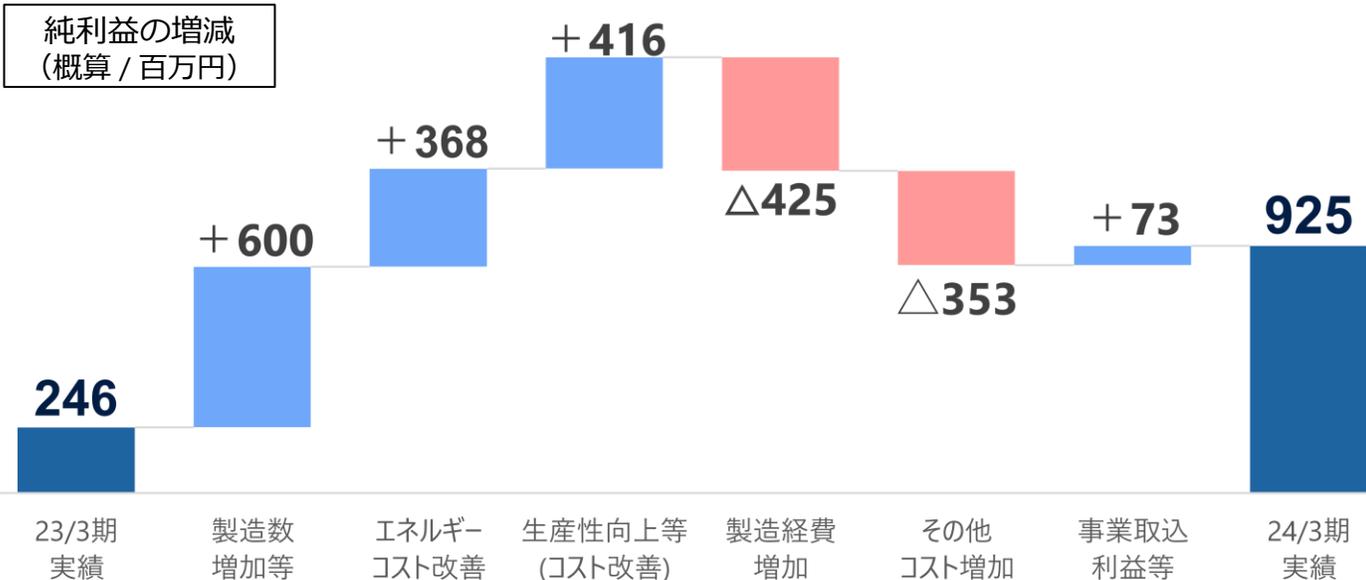
- 1 2024年3月期 決算概要
- 2 2025年3月期 短期経営計画
- 3 中期経営計画の進捗

2024年5月10日

ジャパンフーズ株式会社

(証券コード 2599 東証スタンダード市場)

3/21公表の業績予想（売上高、営業利益、経常利益、当期純利益）を上回り着地。過去最高益を更新。

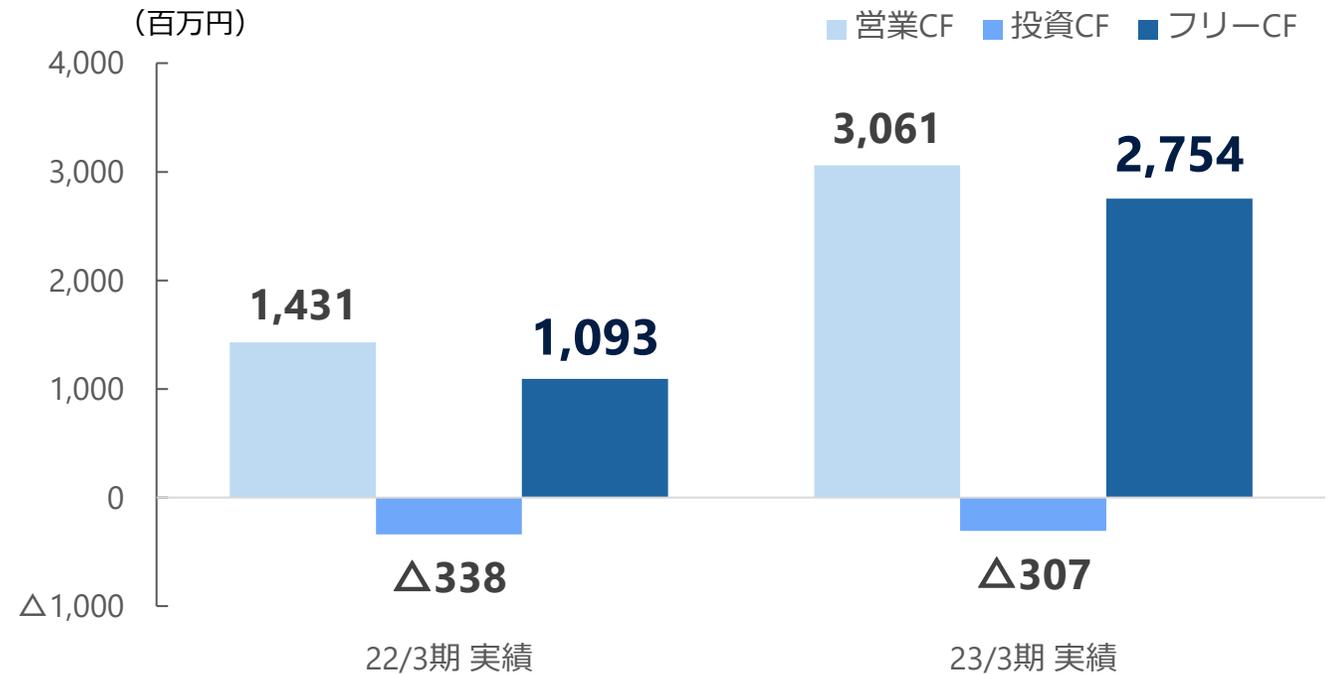


(単位：百万円)	23/3期実績	24/3期実績	増減
製造数 (千ヶ-入)	37,989	43,004	+5,015
営業利益	144	1,009	+865
経常利益	315	1,267	+952
連結純利益	246	925	+679
(単体 / コア)	(93)	(699)	(+606)
(事業取込利益等)	(153)	(226)	(+73)

- 製造数は、小売価格の改定や物価高による消費者の買い控えの影響があったが、新たな販売領域を含めた全ての客先の受注拡大に努め、生産における洗浄時間の短縮やトラブル低減等による設備稼働率を高めたことで、前期比13%増加（飲料業界の前期比1%減）。
- 設備の定期メンテナンスの増強及び原材料の高騰等による製造経費の増加や、人的資本の拡充に伴う費用の増加を、エネルギーコストの改善（エネルギー使用量の改善、政府のエネルギー価格抑制策の効果等）や、生産性向上（有形固定資産の耐用年数変更に伴う減価償却費の減少を含む）の伸長により相殺。
- 事業取込利益は、中国事業が前期の新ライン増設に伴う製造能力の強化により好調に推移したことで、前期比増加。

(単位：百万円)	23/3期 実績	24/3期 実績	増減
営業 CF	1,431	3,061	+1,630
投資 CF/設備投資	△338	△307	+31
フリー CF	1,093	2,754	+1,661
株主資本比率	34%	37%	+3pt
ROE	3.3%	11.6%	+8.3pt
1株当たり配当金	27 円	10円	△17円
(配当性向)	(53%)	(5%)	—

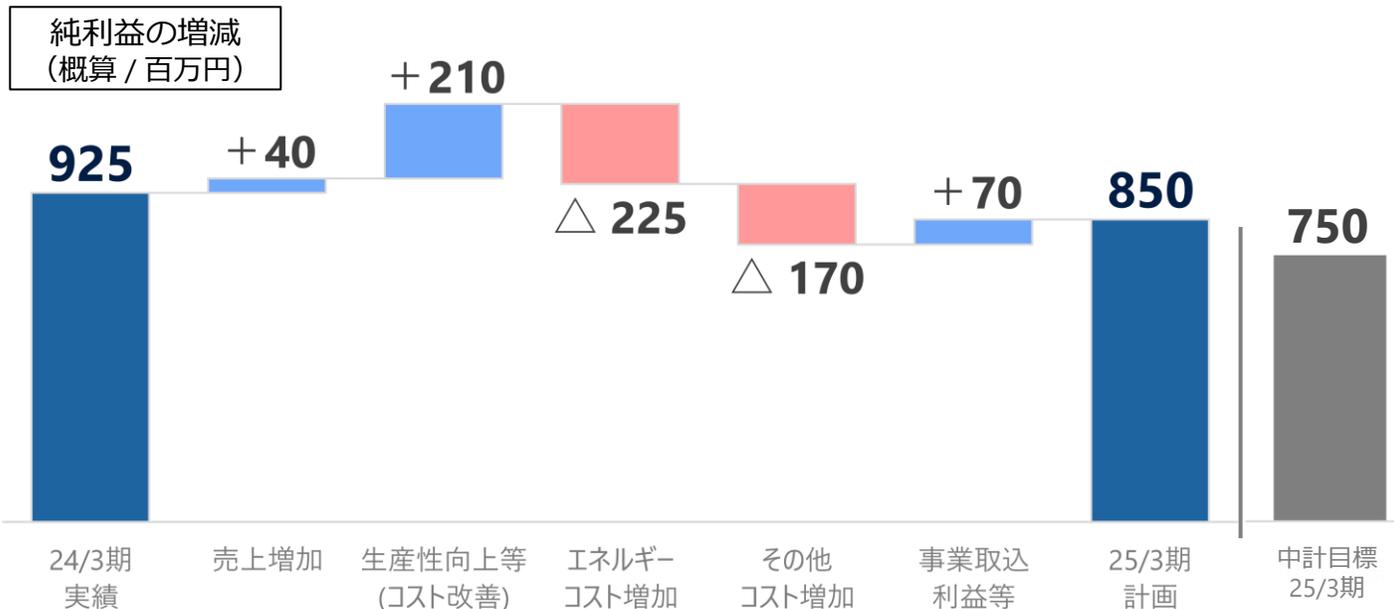
■ フリー・キャッシュ・フロー



- 前期比で増益となったことによる営業CFの増加や、基幹系システム等の持続的成長に向けた投資を実施しつつも、投資内容の厳選による堅調な投資CFにより、フリーCFは前期比 16億円増加。
- 株主資本比率は、借入金の返済による財務体質の改善が進捗し、前期比 3pt 増加。
- ROEは、前期比 8.3pt 増加。中長期目標である 10%を達成。
- 期末配当は無配とし、中間配当10円と合わせて年間配当10円。

		中計 JUMP+++2024			中長期目標	実績/2025年3月期計画		
(単位：百万円)		23/3期	24/3期	25/3期	27/3期 目途	23/3期	24/3期	25/3期
P/L	製造数 (千ヶ入)	41,500	42,500	42,500	45,000	37,989	43,004	42,990
	営業利益	400	700	700	1,000	144	1,009	790
	経常利益	550	900	950	1,400	315	1,267	1,080
	連結純利益	450	700	750	1,000	246	925	850
	(単体 / コア)	(270)	(450)	(450)	(700)	(93)	(699)	(555)
	(事業取込利益等)	(180)	(250)	(300)	(300)	(153)	(226)	(295)
B/S 指標	総資産	20,500	19,500	18,000	18,000	20,871	21,139	20,300
	株主資本	7,700	8,000	8,200	9,000	6,994	7,788	8,500
	株主資本比率	38%	40%	45%	50%以上	34%	37%	42%
	ROE	6.0%	9.0%	9.3%	10%以上	3.3%	11.6%	9.6%
C/F	営業CF	1,600	2,600	2,600	3,000	1,431	3,061	1,800
	投資CF/設備投資	△600	△750	△750	△700	△338	△307	△1,080
配当	1株当たり配当金	27円	27円	27円	—	27円	10円	—
	(配当性向)	(30%)	(20%)	(20%)	—	(53%)	(5%)	—

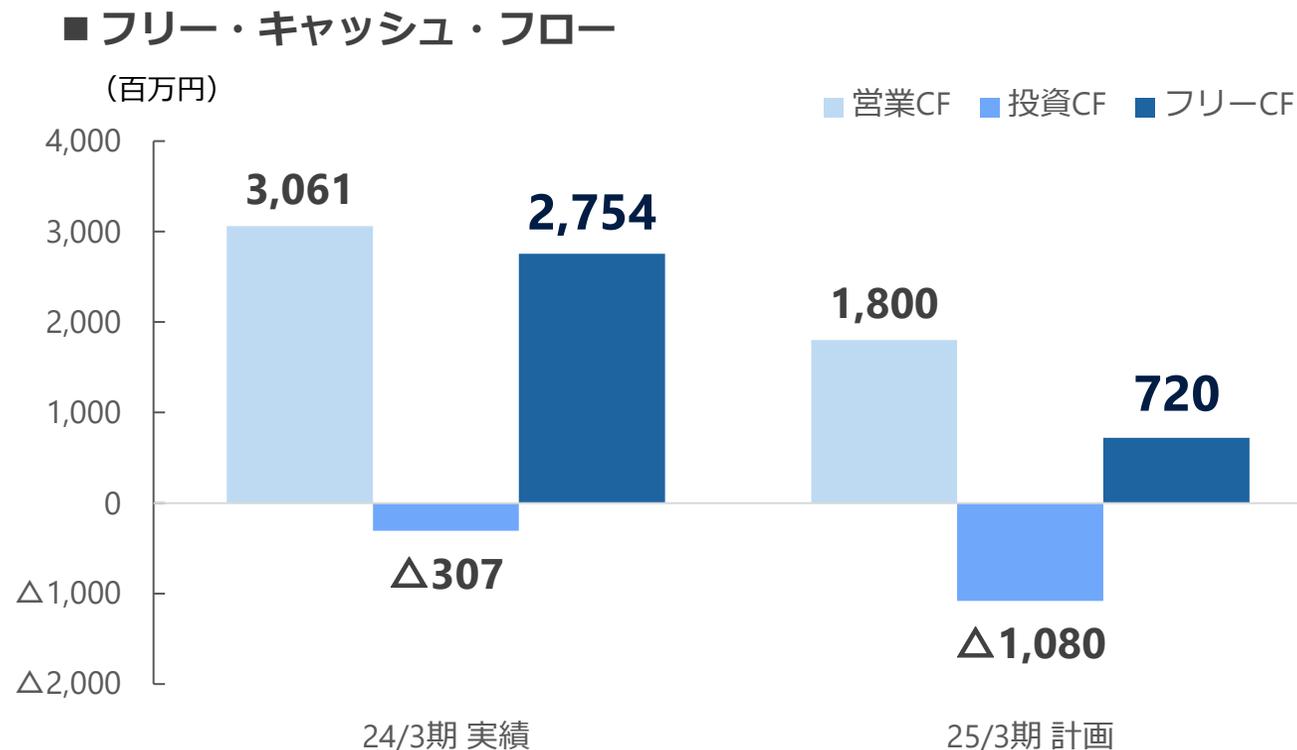
外部環境の悪化によるコスト増加を見込み、前期比で利益減少も、2023年度の成長軌道を維持し、中期経営計画時の目標を上回る利益の達成を目指す。



(単位：百万円)	24/3期実績	25/3期計画	増減
製造数 (千ヶ-入)	43,004	42,990	△14
営業利益	1,009	790	△219
経常利益	1,267	1,080	△187
連結純利益	925	850	△75
(単体 / コア)	(699)	(555)	(△144)
(事業取込利益等)	(226)	(295)	(+69)

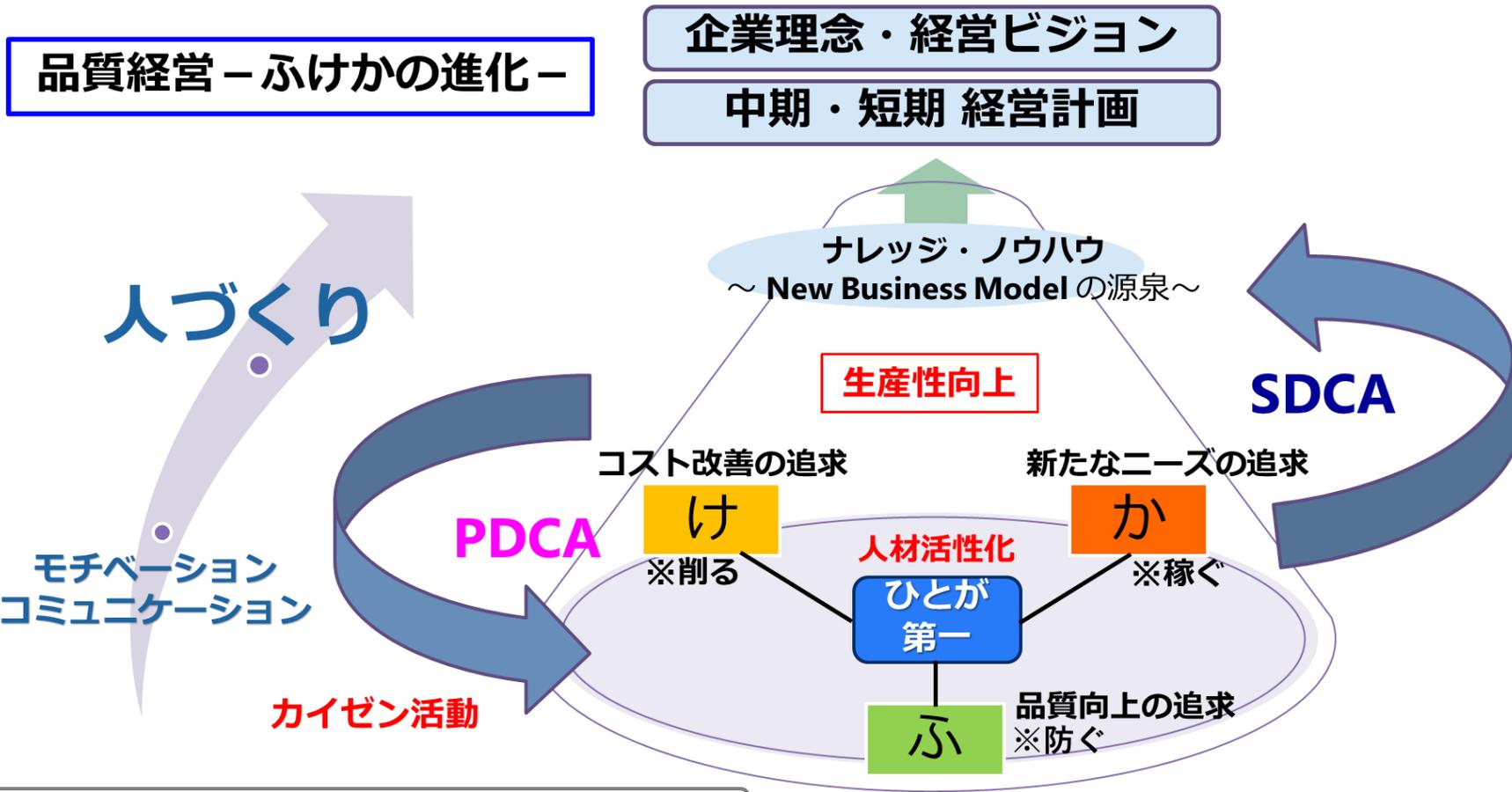
- 製造数は、2024年問題の影響もあり前期並み。原燃料価格の高騰分の一部価格転嫁の実施により、売上は増加。
- 生産性向上によりコスト改善するが、地政学的リスクや円安等の外部環境の悪化や政府のエネルギー価格抑制策の前期反動によるエネルギーコスト増加に加え、2024年問題等による物流費高騰や基幹系システム導入による償却費の増加により、全体コストが増加。
- 事業取込利益は、中国事業を中心に堅調に推移することで、前期比で利益増加。

(単位：百万円)	24/3期 実績	25/3期 計画	増減
営業CF	3,061	1,800	△1,261
投資CF/設備投資	△307	△1,080	△773
フリーCF (連結)	2,754	720	△2,034
株主資本比率	37%	42%	+5pt
ROE	11.6%	9.6%	△2.0pt
1株当たり配当金	10円	—	—
(配当性向)	(5%)	—	—



- 運転資本や税金支払の増加による営業CFの減少や、成長投資（省力化・労働環境改善・基幹系システムの導入等）による投資CFの増加により、フリーCFは前期比 △20億円減少。
- 株主資本比率は、借入金の返済による財務体質の改善が進捗し、前期比 5pt 増加。
- ROEは、減益により前期比 △1.7pt 減少。

品質経営の推進により経済価値と社会価値を両立させた企業価値向上を目指す。



企業価値向上に向けた施策
(経済価値と社会価値の両立)

- ・「品質経営」を全社をあげて推進。あらゆる生産性の向上、新たな販売領域の創出。
- ・財務体質の改善と収益力の強化。
- ・JFらしいスマート工場（DX関連）エッジコンピューティング。
- ・市場環境（サステナビリティも考慮）に合わせた設備投資。
- ・人材育成の強化・ひとへの投資。
- ・環境配慮型経営の推進。

- ・消費者目線に立ち「魅力的商品の追求」
- ・ものづくりへのこだわり、自分へのこだわり
- ・原点回帰・三現主義（現場・現物・現実）

品質経営の総括

- 「品質経営」と「サステナビリティ」を基本方針とし、チャレンジ&コミットを掲げた中計2年目は、「生産性の向上」や「ひとづくり」の更なる進捗により、利益目標及び過去最高益を達成。

2つのセグメントの継続成長

コア：本社工場

新規：事業会社 / 新ビジネス

【コア】

- 営業・生産・開発の三位一体の生産活動によって、新たな販売領域の客先の受注が拡大。
- 生産における製造間の洗浄時間の短縮や設備保全強化によるトラブル低減等により設備稼働率が前期比で向上。
- AIを活用した製品検査機、生産管理システムの更新や経営管理ツールの導入により生産性向上が進捗。2024年度には、センサー技術や生成AI（Chat-GPT）等のAI技術の活用を進めることで、スマート工場に向けた取組みを加速。

【新規】

- 中国事業は、2022年度に新設した製造ラインが順調に稼働し、収益力が強化。
- 国内水宅配事業は、2022年度の価格改定の影響で販売が低迷したものの、新規顧客の獲得に注力することで、2024年度増益を目指す。

人材の更なる活性化
(最適配置・育成強化)

- トータルリワードの考えのもと、チャレンジする組織風土の醸成のため、新人事制度（能力評価制度）の運用を開始。
- 女性活躍推進プロジェクトを発足。社員のキャリアビジョン形成や労働環境改善に向けた取組みを強化。
- 品質経営やデジタル人材の育成に向け、資格試験（QC検定、ITパスポート）の社内研修を充実。

環境配慮・「SDGs」への貢献
持続可能なスクラップ&ビルド

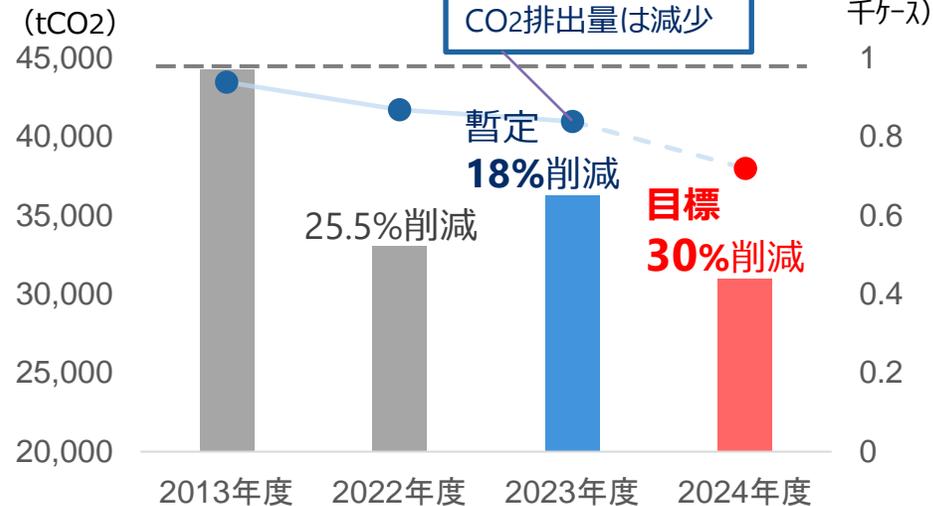
- 環境配慮では、省エネ・省水活動により、給水原単位やリサイクル素材PETの生産使用率が改善。
- 持続可能なスクラップ&ビルドとして、設備他（工場建屋の是正（改善）約39億円含む）への投資を見込む。

キャッシュ・フロー極大化
財務体質の改善

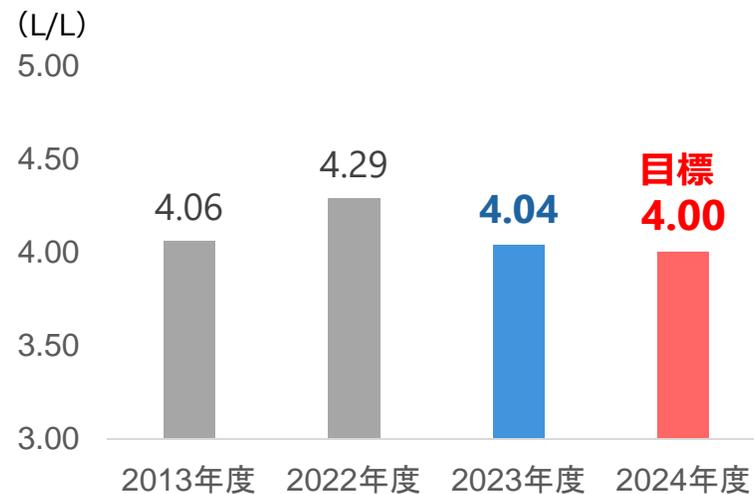
- 安定した営業CFと持続的成長に向けた設備投資の厳選に伴い、フリー・キャッシュ・フローを創出。株主資本比率の改善により財務体質の改善が進捗。

➤ 気候変動（脱炭素）・省エネ/省資源（循環型）：取引先と協業し、環境に配慮した持続可能な経営を目指す。

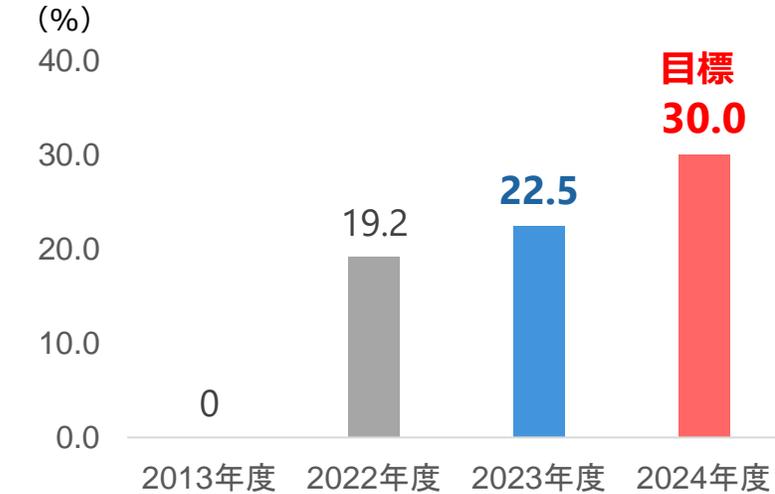
温室効果ガス排出量



給水原単位



リサイクル素材PET生産使用率



給水原単位及びリサイクル素材PETの生産使用率が、2024年度目標達成に向け進捗。設備の洗浄時間の短縮や再利用による節水等の省エネ・省水活動や、製造技術向上に向けた取組みを進めることで、経済価値と社会価値の両立に向けた持続的な改善を図る。

➤ 人権の尊重：多様な価値観とチャレンジ精神、チームワークを尊重し、ひとが第一を実践し続ける。

	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 目標
女性管理職比率	12.5%	9.6%	13%
中途採用人材の 管理職比率	38.0%	44.2%	40%

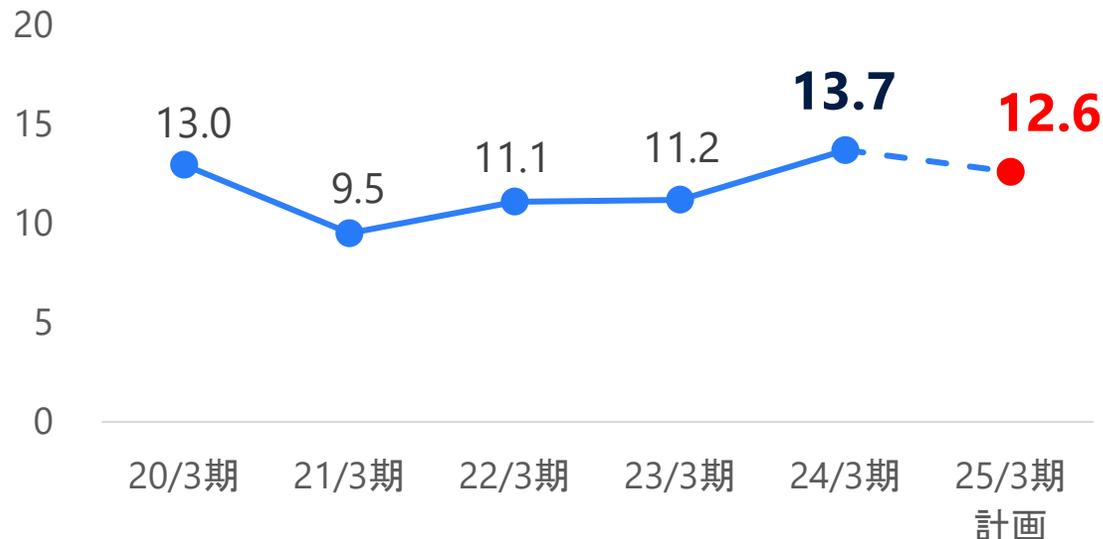
無形資産（人的資本・技術ノウハウ）の最大活用のため、人員体制の最適化や人材育成・教育制度の拡充を通じて、多様な人材の登用を積極的に推進。

- 多様な価値観を持った人材の登用に向けて、女性活躍推進プロジェクトを発足。女性社員を中心メンバーとし、社員のキャリアビジョン形成や労働環境改善における課題解決に向け、社員からのヒアリングや他社との情報交換の結果をもとに、経営陣へ改善提案を実施。
- カイゼン活動やQC活動などの品質活動を活性化。QC検定資格の全社員取得（2022年度53%、2023年度85%取得）やITパスポート資格の取得（ITリテラシーの向上）に向け社内研修を充実。

多様な経営リスクに対応するため、「品質経営」を全社をあげて推進し、製品・サービスと業務プロセスの品質を高め、無形資産の最大活用に伴うあらゆる生産性の向上を推進。

労働生産性

(百万円/人)



労働生産性 = 付加価値額 / 従業員数
付加価値額 = 営業利益 + 人件費 + 減価償却費

資本生産性

(%)



資本生産性 = 付加価値額 / 有形固定資産
(有形固定資産 - 建設仮勘定)

労働生産性、資本生産性ともに、新型コロナウイルス感染症以前の2019年度水準まで回復。2024年度も「品質経営」の推進により収益性を高めることで、生産性を更に向上させる。

増大するリスク（外部環境）

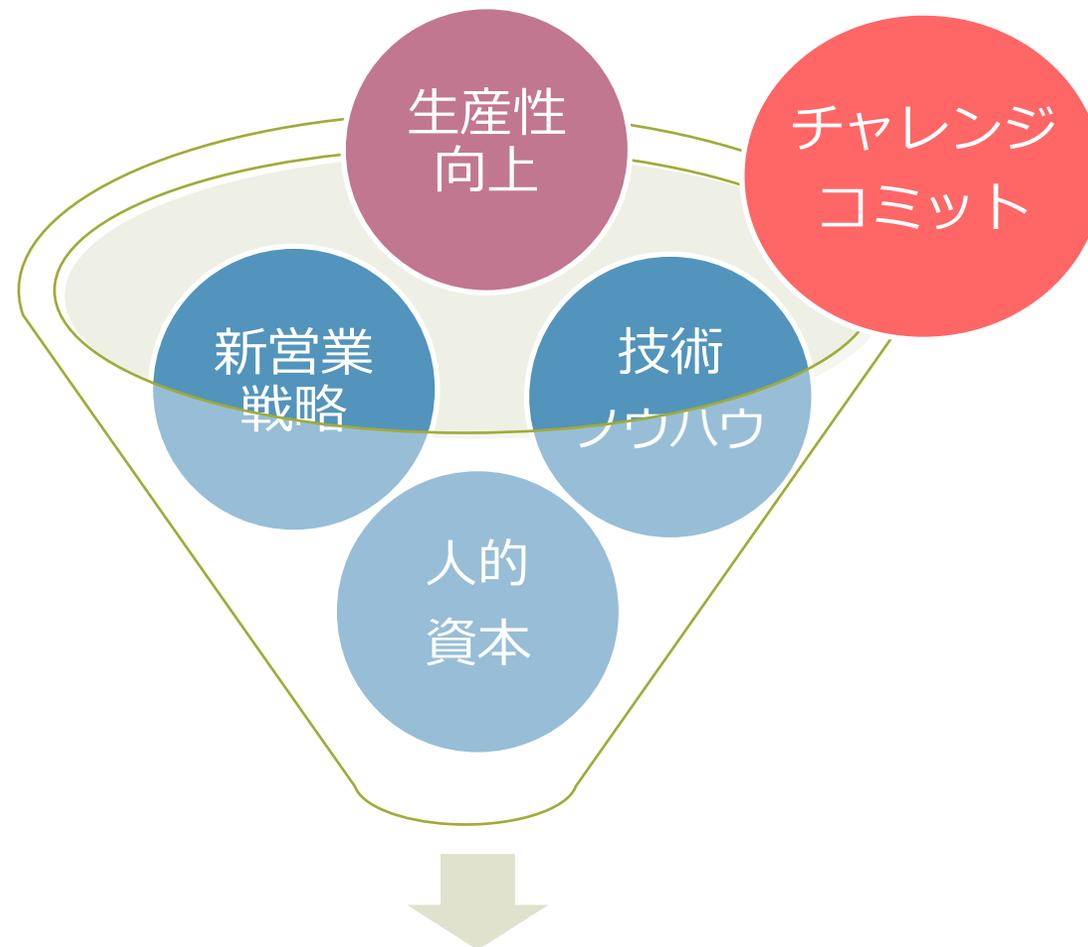
国際情勢

- ・ 資材高騰 コストアップ
- ・ 油価上昇・円安
- ・ 部品調達 (SCM)
- ・ . . . etc

災害

- ・ 新型コロナウイルス拡大
- ・ 自然災害
- ・ . . . etc

為替変動や資源高により、不透明感は継続



より強く！！

よりジャパンフーズらしく！！